

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	30人	国語B	30人
② 算数A	30人	算数B	30人
③ 理科	30人		

5 留意事項

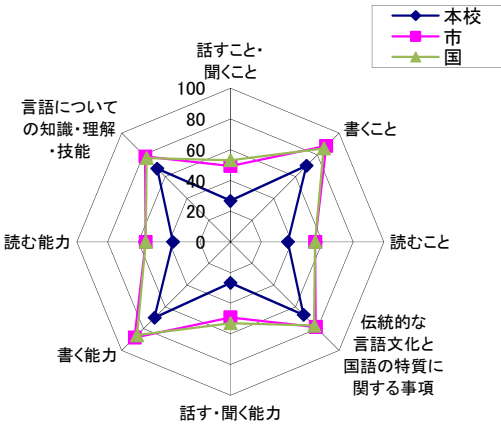
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

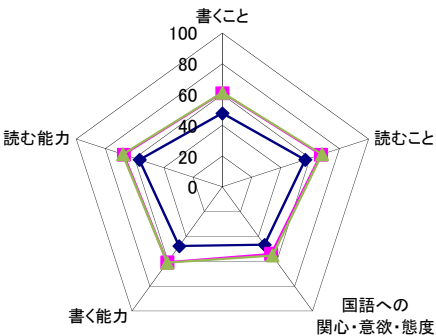
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	26.7	49.3	53.0
	書くこと	70.0	88.2	86.0
	読むこと	37.5	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.4	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	26.7	49.3	53.0
	書く能力	70.0	88.2	86.0
	読む能力	37.5	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	67.4	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	47.8	60.9	61.1
	読むこと	56.7	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	46.7	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	47.8	60.9	61.1
	読む能力	56.7	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強は好きですか。」「国語の勉強は大切だと思いますか。」「国語の授業の内容はわかりますか。」「読書は好きですか。」「国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立ちますか。」の発問では、肯定的な回答は全校平均より高くなっている。
●「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり聞いたりしていますか。」「国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。」の肯定的な回答が全国平均と比べると低くなっている。

★指導の工夫と改善

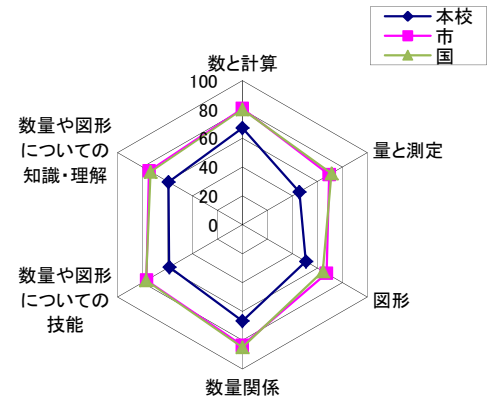
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語Aにおける本校正答率は26.7%であり、市の平均と比較すると22.6%、全国の平均と比較すると26.3%低い。	・話の内容に対する聞き方を工夫する問題では、うまく選択することができなかった。目的に応じて話したり聞いたりする能力を高められるように、計画的にスピーチ・ディベート・インタビューなどの言語活動に力を入れて取り組む。
書くこと	●国語Aにおける本校正答率は70.0%であり、市の平均と比較すると18.2%、全国の平均と比較すると16%低い。国語Bにおける本校正答率は47.8%であり市の平均と比較すると13.1%、全国平均と比較すると13.3%低い。	・文章の要旨をまとめる力を育てるために、新聞作りや意見文、紹介文等を書く活動を多く取り入れる。
読むこと	●国語Aにおける本校正答率は37.5%であり、市の平均と比較すると17.7%、全国の平均と比較すると同様に17.7%低い。国語Bにおける本校の平均正答率は56.7%であり、市の平均と比較すると10.7%、全国の平均と比較すると11.4%低い。	・文章を読み、内容や特徴を適切に捉えることができるように、前後の文のつながりや関係について着目させるような活動を積極的に取り入れて指導していく。 ・著者の意図とするところは何かを意識しながら読む活動を取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を読む問題では、本校の正答率はかなり高くなっている。 ●国語Aにおける本校正答率は67.4%であり、市の平均と比較すると11.1%、全国平均と比較すると9.8%低い。	・主語と述語を的確にとらえる力を身につけさせ、文章の正確な読み取りをするような学習を取り入れる。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

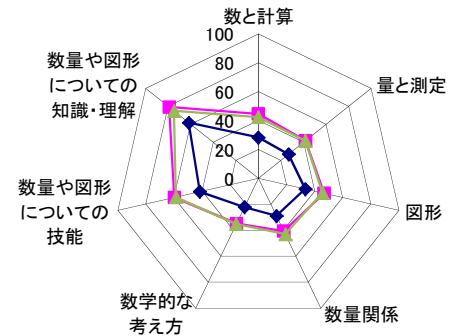
★本年度の国、市と本校の状況
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	67.1	80.7	80.1
	量と測定	45.6	69.6	71.3
	図形	50.8	67.4	64.5
	数量関係	66.7	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	58.6	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	59.3	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	28.3	44.6	42.4
	量と測定	26.7	41.8	41.7
	図形	33.3	46.8	45.6
	数量関係	28.9	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	22.2	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	41.7	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	61.7	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」に対する肯定的回答率が93.3%と非常に高くなっている。
○「算数の勉強は好きですか。」に対する肯定的回答率は、76.7%と県や全国の平均より高くなっている。
○「算数の勉強は大切だと思いますか。」に対する肯定的回答率も96.7%と県や全国の平均より高くなっている。
これらのことから、将来を見据えて算数の勉強に励んでいる様子が伺える。

★指導の工夫と改善

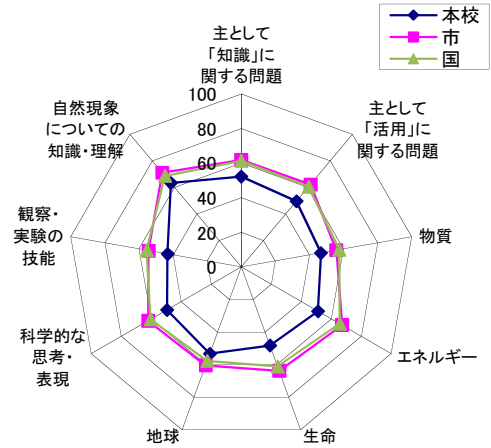
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○繰り上がりのある2位数の加法の正答率は本校は100%であり、市の平均との比較で1.6%、全国平均との比較で1.8%高い。 ●算数Aにおける本校正答率は、67.1%であり、市の平均との比較で13.6%、全国の平均との比較で13%低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、28.3%であり、市の平均との比較で16.3%、全国の平均との比較で14.1%低い。	・小数－小数の概算や小数の加法の仕組みの正答率が低い。計算結果のおよその大きさを捉える機会を増やしたり、単位となる小数の幾つ分で小数の大きさを表したりする機会を増やす。 ・分数÷整数の計算の正答率が低い。除数が整数である場合の分数の除法の計算を繰り返しドリル学習する。 ・切り上げて計算する等、概算することのよさを記述する正答率が低い。概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解できるよう指導を工夫する。
量と測定	●算数Aにおける本校正答率は、45.6%であり、市の平均との比較で24%、全国の平均との比較で25.7%低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、26.7%であり、市の平均との比較で15.1%、全国の平均との比較で15%低い。	・所要時間を基に2つの場所の道のりを歩く時間を考える問題の正答率が低い。日常生活の中で、必要となる時間や時刻を考える機会を増やす。 ・分度器で180°より大きい角度を読み取る正答率が低い。2直角、3直角を基に角度を求められるよう、図や分度器を使って指導を工夫する。 ・正三角形の性質を使って面積を求める問題の正答率が低い。条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用させるなど、図形の性質の復習を個別に指導する。
図形	●算数Aにおける本校正答率は、50.8%であり、市の平均との比較で16.6%、全国の平均との比較で13.7%低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、33.3%であり、市の平均との比較で13.5%、全国の平均との比較で12.3%低い。	・三角形の辺の長さや円の半径の長さを結びつける問題の正答率が低い。円の性質から三角形の等辺を捉えることを個別に指導する。 ・作図に用いられている平行四辺形の性質や特徴を選ぶ正答率が低い。平行四辺形の作図に用いる図形の約束や性質を理解できるよう、教具を工夫して重点的に指導する。
数量関係	●算数Aにおける本校正答率は、66.7%であり、市の平均との比較で17%、全国の平均との比較で18.2%低い。 ●算数Bにおける本校正答率は、28.9%であり、市の平均との比較で11.7%、全国の平均との比較で14.1%低い。	・表題に対して、分かり易く表すことができるグラフを選ぶ問題の正答率が低い。グラフに表されている事柄を読み取ることを重点的に指導し、グラフの種類によって比較しやすい数量があることを多くのグラフを提示して復習する。 ・単位量当たりの大きさをを用いて品物を安く購入する問題の正答率が低い。単位量当たりの大きさを求める目的を振り返らせ、単位量を求める問題を繰り返しドリル学習する。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	52.2	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	49.6	62.2	60.5
区分等	物質	46.7	55.7	57.4
	エネルギー	51.1	67.2	65.6
	生命	48.3	63.8	61.2
	地球	53.3	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	49.6	62.2	60.5
	観察・実験の技能	43.3	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	63.3	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「理科の勉強は好き、実験や観察が好き、よく分かる、大切、将来役に立つ。」の肯定回答割合は80%以上で、理科の学習に主体的に取り組んでいる児童が多い。「自然の中で遊んだり観察したりしたことがある。」の肯定回答割合は90%以上で、身の回りの自然から進んで学んでいる児童が多い。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	●水の温まり方や水への物質の溶け方を図や表やグラフで表した実験結果から、物質の性質について考えることに課題がある。	・実験方法や結果を言葉や図や表、グラフなどでまとめたり、結果から考えたことを話し合ったり文章にまとめたりして表現する力を育てる。
エネルギー	○振り子運動の規則性について条件を制御して調べる方法の正答率は70%あった。 ●実験結果から、振り子の動きを調節したり、軸に適する金属を選んだりする思考面に課題が見られる。電磁石の極や強さについての実験結果から条件について考える問題に課題が見られる。	・条件を考えて実験をしたり、実験結果から条件を変えて実験したりし、実験結果を比較するなどの考察を行う。考えたことを図や表、グラフなどを用いてまとめたり、話し合ったりして思考力を高める。
生命	●メダカやヒトやインゲンマメの成長や栄養の摂り方、インゲンマメとヒマワリの成長の条件など、観察結果から関係性を見つけることに課題が見られる。 ●顕微鏡の名称や使い方に課題が見られる。	・観察、実験実施後、考えられることを話し合ったり、図や文で表現したりし、思考を深め広げる。顕微鏡を操作する機会や時間を増やし、技能を高める。
地球	●観察や実験の結果から分かったことを考える肯定割合は80%を越えているが、実験の計画を立てたり、考えを説明したり、学習したことを活用したりすることの肯定的回答の割合は60%を下回り、苦手意識をもつ傾向があると考えられる。	・観察記録に必要な項目を落とさないように記入したり、観察の回数を増やしたりして、観察結果を図や文で表現する力を育てる。観察結果から話し合い、月や星の動きなどの規則性を見つける力を高める。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。」に対する肯定的な回答は100%であり、また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。」に対する肯定的な回答は、県平均を上回り96.7%であった。これは、日々の活動の中で、大半の児童が、責任ある役割を任される機会が多いからと考えられる。今後も、互いに協力しながら困難を乗り越え、得られる喜びを味わえるような指導をしていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対する肯定的な回答は100%であった。いじめをなくすための指導や全校をあげての取り組みが児童の意識に浸透していると思われる。今後も、いじめゼロに向けた指導を継続していきたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」に対する肯定的な回答は100%であった。また、「将来の夢や目標を持っていますか。」に対する肯定的な回答は93.3%であり、県平均を上回った。今後も、児童が自分の将来像をしっかりと考えられるように指導をしていきたい。

●「学校の授業時間以外に、月～金曜日、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。」に対して、1時間以上勉強していると回答した児童は43.3%であり、県平均の66%を下回った。また、「家で、学校の授業の復習をしていますか。」に対する肯定的な回答は50%であり、県平均の64.2%を下回った。中学校に進学後には、授業内容を復習することがさらに重要になってくるので、家庭での学習の習慣化と共に指導していきたい。